

活動報告書

報告者氏名: 川上 愛里

所属: 京都市立 呉竹総合支援学校

記録日: 平成 26 年 2 月 13 日

【対象児(群)の情報】

・学年

小学部 4 年生男児

・障害名

脳性まひによる四肢体幹機能障害（アテトーゼ型）

・障害と困難の内容

- ・特に両上肢のアテトーゼが強く、物の操作が難しい。
- ・頭部の定位が難しく、目と手（足）の協応が困難である。
- ・構音障害のため、発音が不明瞭で小さい。

上記のことから、主体的なコミュニケーション活動や人との関わりが制限されがちである。また、難しいと感じることは初めから諦めてしまうことが多い。

【活動目的】

・当初のねらい

やりとりの場面や相手を広げることで、主体的なコミュニケーション活動を増やしていく。

・実施期間

平成 23 年（小学部 2 年生）～現在（小学部 4 年生）

・実施者

松尾百絵, 糸矢佳弘

・実施者と対象児の関係

H24 年度担任（現学年主任）、H25 年度担任

【活動内容と対象児(群)の変化】

・対象児(群)の事前の状況

- ・興味関心のある事柄に関しては知識が豊富で、難しい言葉や漢字を知っている。しかし、四肢体幹の機能障害により移動や活動に制限があるため、物の操作や人との関わりを主体的な活動として身につけていく経験が不足がちである。
- ・聞かれたことに答えたり、近くの先生を呼んだりする際には発語がある。しかし構音障害のために確実に聞き取ることは難しい。そのため、作文等では三語文で組立てることができるが、話し言葉では単語一語になってしまい、慣れている大人（保護者や担任）以外の人とのやりとりには消極的である。
- ・平成 23 年度から iPad を活用し、家や教室内では座位保持装置に座り、足指で一般的な操作から文字入力も可能。iPad で書いて伝える経験を積んだことで、「話したい」意欲が高まり、以前より声が大きくなり、発音もやや明瞭になってきている。しかし、足指での操作のために活用場所が限定されており、「話したい」相手も保護者と担任に限られたままであるため、コミュニケーションの場所と相手を広げる取り組みが必要である。

・活動の具体的内容（※それぞれの取組時期は下記エビデンスの表で示す）

A. 自分の思いを文章で表記する

初めに、自分の思いを文字にして記す体験をするために、昆虫の「観察日記」を行なった。青虫から蝶に成長する様子を毎日、足指の入力で、写真と一文のコメントで記録した。書き続けた記録をカレンダー上で一目で見ることができると、アプリは【PhotoMemes】を使用した。



Wed	10	5:42 PM	ドラマのNG集です。
Wed	10	4:53 PM	印象に残った話がありましたか？
Wed	10	4:05 PM	録画しておいたがんばった大賞みました。
Tue	9	5:24 PM	こちらこそ、よろしくお願ひします。
Tue	9	3:28 PM	わかりました。今日からよろしくお願ひします。
Tue	9	3:09 PM	すみません。ためしに入力してみました。
Tue	9	2:00 PM	あいうえおってなにですか？
Mon	8	5:39 PM	ハヤシライスですか？ 美味しそうですね！！ お別れは知ってますよ 明日、発表です。ドキドキしておいてください
Mon	8	5:04 PM	僕はハヤシライスです。 お別れは嫌だからね。
Mon	8	2:06 PM	お母さんがカレーライスを食べたのですか？ つくくんはカレーライスを食べましたか？ 今日で松尾先生との交換も最後になります。 明日からは、新しい先生と頑張ってくださいね！
Mon	8	1:32 PM	かれーびらふをママが食いました。

同時期に、家庭学習として毎日、担任との交換日記の取組を始めた。毎日文章を書くことで、自分の思いを文字にして伝える経験を積むことをねらいとした。今年度4月に担任が変わった際にも交換日記を新担任に引き継いだ。【瞬間日記】は同じアカウントを使用することで、家と家庭とで即時的にやりとりができるため使用した。

※新担任が変わった日と前後のやりとり（赤の囲みが本児の言葉）

次に、対象児は本を読み聞かせてもらうことが好きなことから、文章の構成力や表現力等の文章力向上をめざし、読書感想文に取り組んだ。対象児が口頭で文章を組み立て、担任が手書きでメモにおこし、そのメモを見ながら対象児がiPadの【メモ】に感想文を打ち込んだ。また、一人で本を読むために、デイジー図書を活用した。家庭学習では保護者の協力を得て行なった。学校で取り組む際には、作文用紙に書くように縦書きができる【縦書きエディタ】も使用した。



さらに、自分の好きな事を人に伝えることを目的として文章を作成するために、対象児が好きなクラシック音楽を説明する図鑑を作成した。対象児が所持するクラシック音楽のDVDを写真に撮り、その下に対象児が曲の感想を書いていくというものであった。初めは対象児にとって馴染みのある【PhotoMemes】を使用していたが、100文字までしか文字が打ちこめなかったため、写真の上に文字が書ける【Phonto】を使用することになった。最近では、他の取組でプレゼンテーションの作成を行なっ

オネゲル パシフィック231 この曲名は、蒸気機関車の名前から取られました。全部の楽器が混ぜあっていい感じです。始まりから終わりまで、ずっと機関車がシュッポッポと動きまわるみたいでした。

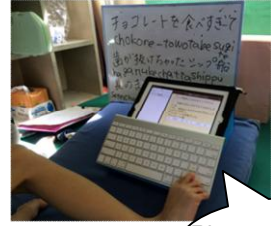
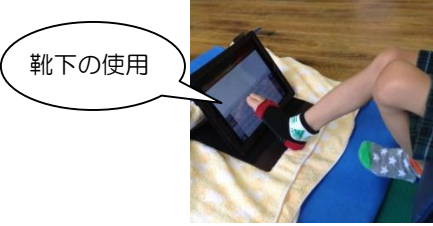
から、図鑑作成や読書感想文も【ロイロノート】を使用してプレゼンテーション形式で作成するようになった。



これらの取組において、対象児の意欲関心を高め継続させるために、活動内容は本人と指導者が話しあって決めてきた。使用するアプリについては、指導者が対象児にあったものを探して提案をした後、本人と話し合っ

て使うアプリを決めている。活動時の座位保持装置やiPadを置く台等の環境は、指導者や保護者が用意し、iPadの起動からアプリを立ち上げることは本人が一人で行っている。

とで誤操作を防止した。今年度に入ってからは、タッチパネルでは多かった誤操作・誤入力を軽減するために Bluetooth キーボードを活用して文字の入力をするようにした。また、校内や外部 PT と連携して座位でのポジショニングを考え、足指入力のしやすい位置や角度を調節してきた。



B. 自分の思いを人に伝える

書いたものを人に発信する経験を積み重ねるために、次の活動を行なった。これまで書かためてきた「クラシック図鑑」を読んだことのない人（学年の教員以外）に発表するために、より詳しくかつ易しい、聞く人を意識した文章に変えていった。担当教員と相談しながら口頭でのやりとりの中で構成や付け足す情報を考えた。



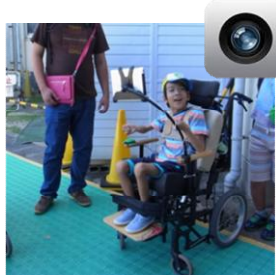
今年度、人への発信を意識した取組を進めてきたことから、対象児から友だちに見せるための「CMを作りたい」という願いが生まれた。そこで、動画や写真と文字を組み合わせることで簡単にプレゼンテーションが作成できる【ロイロノート】を使用して、全校児童生徒に向けたプレゼンテーションを作成した。対象児がシナリオを考え、動画の撮影を行い、文字を入力し、最後にスライドの色や秒数を決めて仕上げた。完成したスライドは児童会の立会演説会の時に PR として発表し、対象児はマイクを使い、自分の声で演説を行なった。



やりとりの場面を地域へ広げ、校外学習時に初対面の人に自分の要求を伝えるために VOCA として iPad を活用した。電車に乗る際には、駅員さんに「スロープを出してください」とお願いしたり、図書館では目当ての本の場所を聞いたりした。また、場面に応じて、発話か iPad の使用かを対象児が選択している。

C. 人との関わりの中で役割を担う

iPad を活用することで、集団の中で役割を担うことができた。クイズの司会者になり、【DropTalk】を使用し、正解・不正解を示す役割を行なった。マイクを使用して発声で伝えるか、iPad を足指で操作して伝えるかは対象児本人が選択して行なった。



また、授業のグループの中ではカメラマンとして役割を定着させた。座位保持装置上に iPad とスイッチを固定し、「カメラシャッターリモコン」を使用して、写真を撮ったり、動画を撮影したりした。慣れない上肢での操作を安定させるためにも、カメラマンを繰り返し行い、スイッチの場所や上肢の動かし方、姿勢等を確認していった。

・対象児(群)の事後の変化

上記 A～C の活動を通して見られた「書く」こと・「話す」こと・「伝える」態度のそれぞれの変化を下の表にまとめた。

	書く	話す	伝える
A	文章力が向上してきた*	発声が増えた 発音が明瞭になってきている	相手に伝わる実感を持た やりとりの意欲が向上
B	言葉を選ぶようになった 構成を考えられるようになった	大勢の前で話すことができた 初対面の人に伝えることができた	「CMを作りたい」という 発信に意欲的な発言があった*
C		自分から友だちにも 話しかけるようになってきた*	友だちの名前を話題に出すなど 友だちを意識するようになった

*具体的なエピソード

・文章力の向上

…読書感想文に昨年度取り組み始めた時は、担任が言葉を引き出し、文章と一緒に組み立てていく必要があったが、今年度は本を読み終わると対象児がスラスラと感想を口頭で話し始めるようになった。

・自分から友だちにも話しかけるようになった

…今年度当初は、他学年の指導者や児童に対しては、声が小さかったり、言いたい事があっても様子を見ているだけの時が多かったが、友だちに「〇〇くん頑張ってる」や「何を買ったん？」と自分の声で話しかける場面が増えてきた。

・「CMを作りたい」

…初めて対象児から他人を意識した取組の願いが発信された。「学校が好きだからみんなで掃除をする姿をPRするCMを作りたい」という対象児の願いをiPadで実現することができ、作ったものを様々な人に見てもらうことで「やってみよう」「できる」という思いを持ち、さらに伝えようとする意欲が高まってきている。

【報告者の気づきとエビデンス】

・主観的気づき

足指で文字を打つスピードが速くなった

・打つ活動を継続したことに加え、画面上のキーボードでは多かった誤入力が、外付け Bluetooth キーボードを使用することで減った。

発話が増え、発声が大きく、明瞭になった

・「書く」ツールを獲得したことで、自分の思いが文章構成としても明確になり、さらに相手に伝えられるようになった。また担任は口頭でのやりとりでは図りきれなかった本児の思いを文章を通して知ることができ、本児の思いに共感できる場面が増えた。文字を手掛かりに本児と担任とのやり取りが深まったことが本児の「伝えたい」意欲を高めた。

・伝えられる→嬉しい・楽しい・自信→もっと伝えたい・文章の工夫→文章力の向上・口頭でのやり取り(増)
→発声(増)、発音が明瞭に→伝えられる…

・エビデンス(具体的数値など)

- ・様々な活動場面に文字を打つ活動を重層的に取り入れて、継続的に iPad を活用することで、本児の思いを伝える取組が広がった。(表 1)
- ・平成 25 年 9 月より外付け Bluetooth キーボードを使用したことにより、授業時間内に打つ文字数が増えた。(表 2)

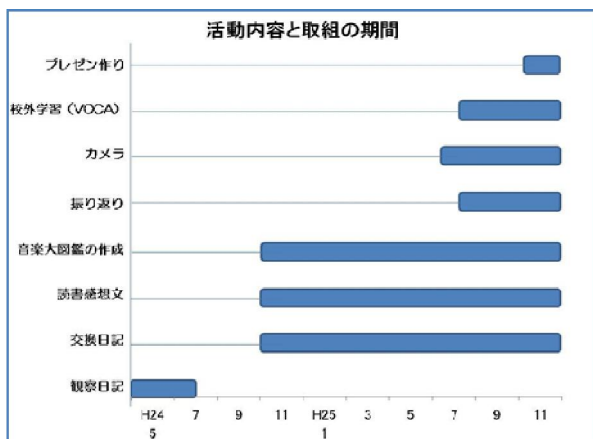


表 1

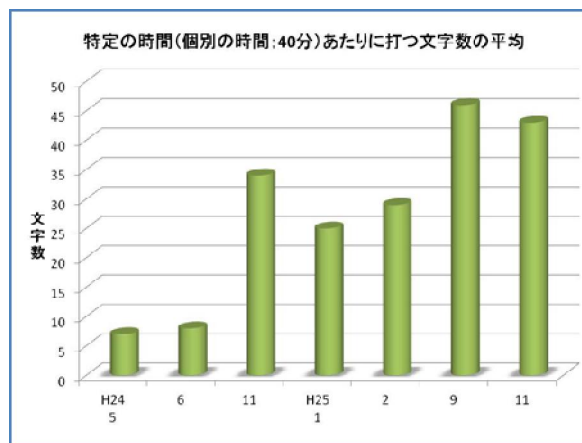


表 2

・その他エピソード(画像などを含めて)

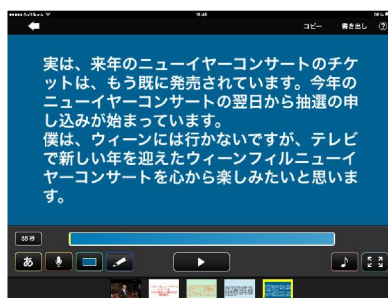
一昨年度より3年間、対象児のコミュニケーション活動を広げるというねらいを達成させるために iPad を一つの手段として活用してきた。将来的にやりとりを広めることを視野に入れ、最初から持ち運びが難しいパソコンではなく、iPad を活用した。思いを文字で伝えるという手段を獲得し、「伝わった感」を積むことで、「もっと伝えたい」という気持ちが引き出され、発話による積極的なやりとりが増えたと考察している。iPad は足指で操作をする対象児にとって、ある程度のことは一人ででき、手軽に取り組みめるツールであり、モチベーションの向上に役立った。今年度、「書く」活動から「発信する」活動へと広げていった際にも、座位保持装置上に取り付けて持ち運べる iPad の携帯性と多機能性により、VOCA やカメラ等様々な用途で対象児の活動を広げることができた。

iPad では足指の入力で自分の思いを書き記して伝えることができるが、誤入力・誤操作は減っているとはいえないものの、完全になくなることはなく、長い時間をかけて文章を作成している。また、移動式座位保持装置の上では iPad に足指による文字入力ができないため、即時的な意思表示、やりとりを行う為に、移動式座位保持装置上でスイッチ等を併用して意思表示する手段の獲得が必要である。

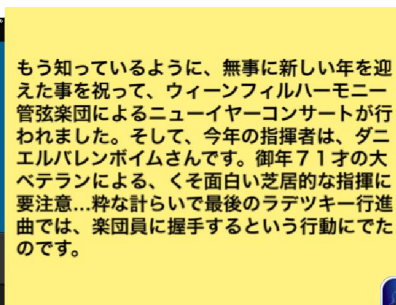
今年度は iPad のアクセシビリティのスイッチコントロールを使用してスイッチでの入力を試みたが、上肢の随意的な操作が難しく、試行錯誤している。さらに、文字入力に関しては、iPad だけでなく視線入力装置やモーションスイッチ等、他のツールも活用して、対象児に合ったコミュニケーション方法を探していきたい。最終的には対象児が活用場面に合わせて自分で機器や方法(発話も含め)を選択して自由にコミュニケーションできるようにしてほしいと思っている。




読書感想文(H24.10 作成)



クラシック音楽図鑑【お正月番外編】(H25.1 作成)



<活動に使用したアプリ一覧>

アプリ名	ア プ リ ノ イ コ ン 	対象児を中心に見た特徴
PhotoMemes		写真とコメントを記録できる。 写真はカレンダー上に並ぶので、継続した取組を一目で見ることができる。 文字は 100 文字まで。
瞬間日記		手軽に日記がつけられる。写真を貼りつけることもできる。 アカウントを持って同期できるので、2台以上の端末で共有ができる。
メモ		標準のアプリなのでどの端末にも入っていて、操作が簡単。 設定で文字の大きさを変えることができる。
縦書きエディタ		原稿用紙に書くように縦書きができる。
Phonto		写真に文字を書き込むことができる。 文字の大きさや色、フォントなどをカスタマイズできる。
VOD		Daisy 図書を iPad 上で再生することができる。
DropTalk		よく目にするシンボルが入っているので、作成しやすい。 表示するキーの数を選べるので、子どもに合わせやすい。
カメラ		外部の機器を使って、スイッチでシャッターを押すことができる。
ロイロノート		簡単にプレゼンテーションスライドが作成できる。